



HIGO プログラム基金へのご寄附のお願い

健康生命科学のリーダーを目指す大学院生の教育研究活動に対する皆様のご理解とご支援をお願いいたします。詳しくは、HPをご覧ください！

<http://higoprogram.jp/higokikin/>

健康生命科学の 次世代リーダーを目指して



入学から 修了までの流れ

基礎+専門コース	基礎コース(修士)		専門コース(博士)			
	1年次	2年次	1年次	2年次	3年次	4年次
学位論文研究						
医学・薬学の講義						
+ @ HIGOの“博士”教育						
最先端研究セミナー						
研究室ローテーション						
社会文化科学の講義・演習						
企業・行政・海外インターンシップ						
企業・行政セミナー						
語学、リーダーシップ研修						

従来の大学院と同様に学位論文研究を行い、高い専門性や研究力を身につけながら、世界各国の政策・文化・宗教・倫理などを学ぶ「社会文化科学」、企業・行政セミナー、インターンシップなど、独自のカリキュラムがあります。

博士
(健康生命科学)

国際的に活躍する
教育研究リーダー

アジアに展開する企業で
活躍するリーダー

保健衛生・医療行政で
活躍するリーダー

国内外の企業・行政機関のリーダーなどの講演、講師と学生の意見交換を通じて、リーダーの資質やキャリアパスなどを学びます。

企業・行政セミナー Business & Governmental Seminar

**5月31日 Gaviワクチンアライアンスの
国際保健に果たす役割とキャリアパス**
北島 千佳
【GAVIワクチンアライアンス上級資金調達官】

**6月 7日 バイオテロリズム・バイオセキュリティ
ー安全保障と危機管理の視点から**
宮坂 直史【防衛大学校国際関係学科 教授】

**6月14日 仕事も人生も充実させるための
キャリア・マネジメント**
家島 明彦【大阪大学全学教育推進機構 講師】

6月21日 CREATE THE FUTURE
仁禮 彩香【株式会社Hand-C 代表取締役社長】

7月 5日 インドの医薬品事情
長田 俊治【元広島国際大学薬学部 教授】

7月12日 医薬品開発におけるグローバル視点
角崎 英志【株式会社新日本科学安全性研究所 所長】

7月19日 国際標準化の重要性と必要性
石井 良和【東邦大学医学部微生物 教授】

**7月30日 超高齢社会への対応
ー社会保障制度改革の視点ー**
江崎 禎英【経済産業省 政策統括調整官】

**9月28日 熊本の持続可能な発展を目指して
ー若者へのメッセージー**
小野 泰輔【熊本県副知事】

10月 4日 iPS細胞研究の現況と展望
戸口田 淳也【京都大学iPS細胞研究所 副所長】

**10月11日 トータルヘルスケアにおける
機能性食品の重要性と研究開発
ー女性医療を支える新規機能性食品「エクエル」の創出ー**
内山 成人
【大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部 フェロー】

**11月22日 ビジネスエコシステム
ー業界の垣根を超えた社会課題解決**
橋本 博文【日本ユニシス株式会社執行役員】



HIGOプログラム生の 研究成果 + @

プログラム生の研究活動をサポートするための
研究費や学会参加費・旅費などを、希望者
に対して選考の上、支給しています。

※学年は2018年度時点

Best
Abstract
Award
受賞

American Association of Pharmaceutical Scientists 2018 (2018.11.4-7 米国ワシントンD.C.)

受賞演題 Comparison of Posttranslational Modification and
the Functional Impairment of Human Serum Albumin in Commercial Preparations

ヒト血清アルブミンは、翻訳後修飾を受けると薬物結合や抗酸化などの機能が低下します。臨床で用いられている「アルブミン製剤」にも翻訳後修飾体が含まれます。そこで、5社の市販製剤の翻訳後修飾の程度と機能を比較しました。その結果、翻訳後修飾の度合いと機能低下は正の相関を示すことが明らかになりました。臨床では翻訳後修飾の度合いが低い製剤を使用することが望ましく、翻訳後修飾体の測定はアルブミン製剤の質を予測するマーカーとして有用であると期待されます。

今福 匡司
Tadashi Imafuku
4年コース 薬学教育部
薬剤学分野
博士課程3年



棕木 歩
Ayumi Mukunoki
専門コース 医学教育部
資源開発学分野
博士課程2年



「生殖工学研修会」でのインストラクター (2018.10.15-19 米国のジャクソン研究所)

本年10月、マウスを用いた生命科学研究の総本山であるジャクソン研究所(アメリカ)で、マウス生殖工学技術研修会が開催されました。私は、インストラクターとして、各国から参加した技術者・研究者に対して技術指導を行いました。研修会では、私達が開発した技術を一人一人に指導し、最新の研究成果について活発に議論することで、自分の研究が世界をリードする大学や研究機関で役立っていることを知る貴重な機会になりました。

「聞いてみんな、みつけんね!理系のロールモデル」 (2018.7.21 開催 熊本大学)

発表内容 ∞薬学から広がる未来は無限大∞
ぜひ薬学部で「なりた私」を目指してみませんか?

私が考える薬学部の魅力は、職業選択の幅が非常に広いことです。薬学部では化学・生物・物理・医療など幅広い専門知識を学ぶことができます。そのため、薬学出身者の就職先は医療機関だけでなく、行政、教育・研究機関、製薬・医療機器メーカー、バイオベンチャーなど、多岐にわたっています。大学は自分のやる気次第で、可能性が無限大に広がると感じています。世の中には素敵な職業がたくさんあるので、大学で多くのことを学び、自分が本当にやりたい仕事を見つけて、ぜひ「なりた私」を目指してほしいと思います。



前田 有紀
Yuki Maeda
専門コース 薬学教育部
製剤設計学分野
博士後期課程3年



海外インターンシップ Overseas Internship

中国

2018.10.15 - 10.19 【学生4名、教員2名】

国家を挙げて医療技術の推進、医療制度改革に取り組み、健康水準が急速に向上している中国。現地の大学、医療機関、日系製薬企業などを訪れ、中国の薬学研究・教育や医療制度、日本企業のアジアにおけるビジネス展開の現状や課題を学びました。



大学

中国薬科大学 China Pharmaceutical University (CPU)

- 施設、研究室等の見学
- CPUの学生・留学生との意見交換
教育環境は日本と変わらないが、研究環境については資金も研究設備も日本の大学よりも充実しており、中国が国を挙げて科学技術の向上を推進していることを実感！



医療機関

病院訪問

- 南京市第一病院(中国薬科大学附属病院)：医療レベルの最も高い三級甲等病院であり、最新の医療設備が導入されている。
- 南京市中西医结合医院：三級甲等病院。中医学と西洋医学を統合した「中西医结合医学」を基にした治療を実践。
- 鼓楼区挹江門社区卫生服务中心：一般病院・健康センター。健康相談や鍼灸・マッサージ治療を組み合わせた診療が行われている。



薬局訪問

- 老百姓大薬房：中国で3千以上の店舗を展開し、約5万品目の医薬品・医療機器を販売する大手チェーン薬局。西洋薬と中医薬の調剤施設が併設。

中国では、都市部の就労者と非就労者、農村部の住民で医療保険制度が異なり、医療費も病院・医師のランクごとに異なる。経済発展が目覚ましい一方で、国民の所得差に伴う医療格差が拡大！医療システムには課題があることを学んだ。

日系製薬企業

参天製薬中国有限公司(蘇州工業園区)

- 工場見学
- 中国の医薬品承認制度、点眼剤・独自の容器開発、日系企業の中国進出に関する講義
- 社員との意見交換



中国は、欧米・日本より基準が厳しい医薬品承認制度を制定することを目指しており、頻繁に医薬品承認制度が改定される。制度改定の度に迅速な対応が求められるため、現地の日系企業間で密に情報交換を行い、連携することも必要！

インド ハイデラバード市

2018.11.16 - 11.24 【学生6名、教員2名】

インドは広大な面積と世界第2位の人口を有する多民族国家です。近年の経済成長は著しく、日本からの企業進出も増えています。そこで、インドの歴史や政治・文化に触れ、医療・科学技術振興や日本とインドの連携などについて学ぶため、政府機関、大学、製薬企業などを訪問。バングラデシュインターンシップ(平成27年度)やネパール(平成28、29年度)に続き、インドでもインターンシップを実施することで、南アジア地域の現状や課題への理解を深め、グローバルな問題解決に必要な素養を身につけました。



オリエンテーション

Ashoka Institute of Engineering and Technology

インドの歴史、文化、政治、経済、医療などに関する講義



製薬企業

Dr. Reddy's Laboratories Ltd.

Dr. Reddy'sはインドを代表する製薬企業。

- 施設見学
- グローバルな事業展開の戦略・課題に関する幹部との意見交換



民間組織

SAFA Foundation

カパンの作成・販売などを通じた貧困家庭のムスリムの女性に対するNPOの支援について学んだ。



SWAEROES Schools for Childrenほか

テランガナ州の農村部にある学校や集会場を訪れ、カーストに基づく差別問題などを抱えるコミュニティにおける、子どもや若者への教育といったコミュニティ支援活動の実態を学んだ。



行政機関

Telangana Tribal Welfare Residential Educational Institutions Society

- テランガナ州の少数民族に対する教育・福祉政策についての講義

大学

インド工科大学ハイデラバード校(IIT-H)

- JICAフレンドシッププロジェクト(日印による産学連携)に関する講義・意見交換
IIT-Hに駐在するJICA専門家から、プロジェクトの概要、同大と日本の大学や企業との共同研究・交流などのお話を伺った。また、HIGOプログラム生らがIIT-Hの環境技術の紹介動画の撮影に協力。水俣インターンシップの経験に触れた上で、環境保護を訴えた。



■工学分野の研究室訪問



Jawaharlal Nehru Technological Universityハイデラバード

- 薬学・環境科学分野の研究室訪問、HIGOプログラム生による研究発表



インド情報技術大学ハイデラバード校

- インドにおける地震対策や日本との違いに関する講義、意見交換
- 起業家のためのインキュベーションセンター訪問
IT産業で知られるハイデラバードの起業の実態を学んだ。



企画提案型インターンシップ Proposal-based Internship

米国ニューメキシコ大学

2018.8.14 - 9.16

【森内 将貴 4年コース 薬学教育部 遺伝子機能応用学分野 博士課程4年】

森内さんは博士号取得後、薬剤師資格や研究経験を活かし、医薬品の承認・審査等を行う行政機関に就職予定です。これまで、インターンシップや社会文化科学のレポート執筆・成果発表を通じて、日本・ネパール・欧米の医療制度の比較を行ってきました。今回、米国の大学で最前線の薬剤師養成教育を受けたり、薬剤師業務を体験することで、今後の日本・アジア・世界の医療行政や薬剤師教育のあり方を学ぶため、5週間のインターンシップを企画・実現しました。

日本の医療を客観視することができた。医療制度の異なる国から学べることは必ずあることを実感！



※学年は2018年度時点

ニューメキシコ大学における Pharm. D コースの体験

日本では、6年制薬学部を卒業し、資格を取得した者が薬剤師となるが、米国では、薬学部以外の学部卒業生も、Pharm Dコース（大学院博士課程）にて治療学を重視したカリキュラムを履修すれば、薬剤師資格を取得できる。

- 薬物治療・医薬品行政・キャリアパスなどに関する講義の受講
- 生涯学習プログラム「Project ECHO」の疼痛緩和に関する電話会議への参加

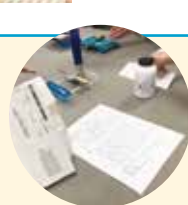
大学病院外来や調剤薬局における薬剤師の業務体験（処方・調剤など）

ホームステイ・学生交流



米国の医療についての学習・考察

- 疾患対策
 - 米国には多種多様な気候・移民が存在し、感染症が起りやすいため、その対策を重視。
- 医療保険制度、診断・治療ガイドライン、医療情報データベース
 - 国民皆保険制度や国による薬価の決定システムがない。
 - 医師中心で診断・治療が行われる日本に対し、米国ではガイドラインが無償で公開されており、患者が自ら情報収集をし、治療方針を選択するセルフメディケーションが中心。
 - 州によっては医療用麻薬の個人使用が認められており、日本よりも麻薬入手が容易で中毒問題が深刻。
 - 多様な医療情報データベースが存在。研究者やFDA職員などが無料で閲覧し、臨床・疫学的研究に利用でき、副作用リスクの発見につながる。しかし、データの登録様式が統一されていない等の課題も残っている。



海外の医療を参考に、日本で実践可能かつ最適な医療の形を模索できると良い！



帰国後、10月18日シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」(文部科学省特別経費「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」)にて講演
演題「ニューメキシコ大学における臨床薬学研修について」

行政インターンシップ Government Internship

水俣

2018.8.27 - 8.31 【学生7名、教員3名】

高度経済成長期の日本で起きた深刻な環境問題である水俣病とその対策を「科学と環境の調和」の観点から検証。水俣病のメカニズムに加え、水俣病の発生と対策をめぐる歴史・社会的背景、過去の教訓をふまえて今日の水俣で実践されている環境政策や環境学習について学びました。



水俣病の歴史・社会的背景

- 水俣市立水俣病資料館および国水研水俣病情報センター
 - 患者運動、患者訴訟支援ほかに関する講話、資料館見学
- 一般財団法人水俣病センター 相思社 水俣病歴史考証館
- 社会福祉法人さかえの杜はつはうす
 - 胎児性・小児性水俣病患者の方々との交流



水俣病の研究

- 環境省 国立水俣病総合研究センター（国水研）
 - メチル水銀の健康影響、環境中の水銀循環ほか、研究・調査・国際貢献活動に関する講義
 - 体内のメチル水銀量を測る毛髪水銀値測定
 - 国水研に勤務するHIGOプログラム修了者による講義、研究業務紹介など
- 水俣市立総合医療センター内 Magneto EncephaloGraphy (MEG) センター
 - 水俣病患者に対する最新の治療法の見学



環境政策・環境学習

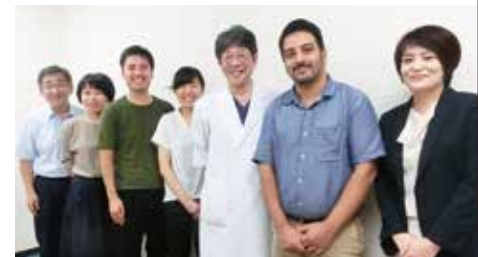
- 水俣市役所・リサイクル企業アクトビー
- 環境教育についての講義
 - 森山亜矢子氏（環不知火プランニング代表理事）
- 水俣高校の高校生とのワークショップ
 - HIGOプログラム生によるアルメニアの水銀汚染問題の紹介
 - 「20年後の故郷」に関する英語でのグループ討論およびアイデア発表



新潟県佐渡市

2018.8.29 - 8.31 【学生2名、教員3名】

これまで5年連続で行政インターンシップを実施してきた天草地域と同じく、過疎地の医療問題を抱え、さらに離島という特殊な環境下にある佐渡市を訪問。3日間で、地域連携医療ネットワークシステム「さどひまわりネット」の現状・課題を多職種の視点から学び、天草地域への展開についても考察しました。



- 佐渡市役所 ■佐渡市の市民福祉部職員らによる講義
 - 佐渡市の医療・介護・福祉の社会保障体制の現状、課題に対する取組みを学んだ。

さどひまわりネット運営事務局

- 事務長による運営体制に関する講義

さどひまわりネット利用者

- 介護老人保健施設親里 ■近藤内科胃腸科 ■グリーン薬局
 - 一部の検診データや他の医療機関の検査結果、診断結果を閲覧できる
 - ユーザーの高齢化により、利用していない機能もある
 - 介護の現場で、多職種間の連絡手段として、ネットワークを活用できると良い



JA新潟県厚生連佐渡総合病院

- 施設見学
- 佐藤賢治院長による講義
 - 佐渡市の社会保障（地域包括ケア）の課題と取り組み
 - 佐渡の医療人材獲得に向けた取組み



研修成果発表

- ①佐渡市の医療の現状と課題
- ②「さどひまわりネット」のユーザー側から見たメリット・課題
- ③「さどひまわりネット」の運営側から見たメリット・課題
- ④学生からの課題に対する解決策の提案



企業インターンシップ Business Internship

株式会社 新日本科学

2018.9.3 - 9.7 【学生3名、教員2名】

前臨床試験などを行う医薬品開発の受託研究機関にて、今年で6回目となるインターンシップを実施。座学や現場体験、社員の方々と議論を通じて、企業の理念、各種規制を遵守しながら厳密に管理運営している受託研究体制の現況や地域社会への貢献のあり方を学びました。

- 企業理念、組織・経営、事業紹介、法令遵守、地域・社会貢献などに関する講義
- 安全性研究所の事業戦略、部門・業務内容紹介、人材育成、安全性試験に関する講義
- 施設見学、実験実習
- HIGOプログラム修了後の進路に関する社員との意見交換
- インターンシップ成果発表



社員の方々が共通の理念の下、同じ目的・方向を向いて働いており、社会人・企業のあり方を学べた。私も、社会人になるまでに人間力を鍛えつつ、研究を通じて分析力や反省力やコミュニケーション力も培いたい。



同仁化学研究所

2018.10.1 - 10.5 【学生2名、教員2名】

熊本発で米国、ドイツ、中国など世界にも事業展開している試薬製造・販売企業にて、今年で3回目となるインターンシップを実施。バングラデシュとインド出身の留学生の視点から、試薬会社の現状を学ぶと共に「南アジア地域での新規市場の開拓」というグローバルなミッションにも挑戦しました。

- 企業概要および製品開発・販売戦略に関する講義
- 施設見学、実習
- ミッション「南アジア地域での新規市場の開拓」達成に向けた市場調査、情報収集、立案
- 若手社員・役員の方々に対する成果発表・議論



日本企業の戦略・強みと充実した研究環境など、将来に役立つ学びを実践できた。社員の方々と、日本での生活・研究、南アジアでのビジネス展開について議論できて良かった。



熊本日日新聞社

2018.9.4 - 9.10 【学生2名、教員3名】

新聞社の現場体験を通じて、記事執筆やメディアを通じた情報発信のノウハウを習得しました。熊本地震に加え、昨年度発効した「水銀に関する水俣条約」に関連して水俣病や水銀問題、アジアで新たに浮上した「マイクロプラスチック汚染問題」を取り上げ、SDGs（持続可能な開発目標）とジャーナリズムの視点から、熊本とアジアの環境問題への考察を深めました。



わかりやすい記事作成とメディアによる情報発信

- 井芹道一氏（編集委員、熊本大学客員教授、HIGOプログラム担当者）による講義
- 社会部・政治経済部記者への同行、取材
- ふるさとを襲った熊本地震 地元紙として何を思い、どう報道したか
毛利聖一氏（政治経済部長・論説委員）被災者かつ記者という立場から、熊本地震発生当時の報道の苦労と今だからこそ語れる思い、今後の熊本地震報道に対する考えなどに触れた。



熊本・アジアのグローバルな環境問題

■水銀問題

- 水俣病・水銀問題に関する講義
- 水銀フリーを目指す熊本市の取り組みの学習
 - ・有価物回収協業組合石坂グループの訪問
 - ・熊本市の蛍光管等「特定品目」の分別収集に関する講義、意見交換
 - ・熊本市の委託により行っている水銀含有製品の分別収集などの現場見学
 - ・取材成果のレポート執筆

■私の国の環境問題に関する発表・議論

- アルメニア：金採掘による水銀・シアン化合物汚染と原子力発電問題
- 中国：三峡ダムによる地滑り・がけ崩れ発生と生態環境への悪影響

■マイクロプラスチック問題

- 水銀など重金属汚染に続く新たな地球環境問題「マイクロプラスチックによる海洋汚染」についての講義、意見交換



便利さと低コストを優先した人間の経済活動から生まれた環境問題



企画提案型インターンシップ Proposal-based Internship

EY 新日本有限責任監査法人

2018.2.12 - 2.24

【藤村 瑠衣 4年コース 薬学教育部 薬剤学分野 博士課程1年】

薬剤師資格を有し、博士号取得を目指し、日々研究とHIGOプログラムの活動に取り組んでいる藤村さん。薬剤師・研究職以外の業務として、医療・科学振興などに関わるコンサルティング業務を体験し、①今後の将来設計に役立てること、②実社会における自身の適性や能力を客観的に評価することを目指し、インターンシップを企画・実施しました。

業務内容

- 国際機関やWHOの取組内容の調査
- 調査結果の文章・スライド作成
- アンケート集計、ヒアリング同行
- 社内中間報告等の会議への参加
- 最終日の成果発表
- 熊本での追加調査、資料作成



インターンシップを終えて

医療機関以外にコンサルティング業界でも、医療の専門性が十分役立つことを実感！情報整理・スライド作成・プレゼンテーション力やコミュニケーション力について、社員の方々から信頼・評価していただけたことが自信になりました。同時に、自分の調査結果が活用される「緊張感」と、案件の趣旨やクライアントの要望を汲み取り、調査・提案することの難しさややりがいを感じました。社員やヒアリング先の方々との交流から、自身の能力を知り、今後のキャリアの方向性を見出すことができ、大変貴重な機会となりました！



※学年は実施当時

HIGOプログラム生紹介

研究テーマ

血清タンパク質を活用した新規腎疾患治療薬の開発

Development of new therapeutic drug for chronic kidney disease with serum protein.

Vision

将来は医療制度や臨床現場、海外の動向など幅広い視点で医療・患者のニーズを捉え、患者を含めた医療を取り巻く人々全員を助ける仕事をしたいです。



Action

ネパールや新潟県佐渡市へのインターンシップ、セミナーを通じて患者に薬を届けるには薬の開発だけでは不十分で、医療施設へのアクセスや医療従事者への負担、医薬品の品質など多くの物事を考慮する必要があることを知りました。HIGOで幅広い視点を獲得したことは今後の医療課題の抽出・解決につながると思います。

私は身体にもともと存在するタンパク質の免疫調節効果に着目し、慢性腎臓病（CKD）への応用を目指しています。この研究は未だ有効な治療薬のないCKDの新規治療薬開発につながると考えています。



藤村 瑠衣 Rui Fujimura
4年コース 薬学教育部 薬剤学分野 博士課程2年

研究テーマ

新規糖代謝制御因子の同定とその分子メカニズムの解明

Novel molecular mechanisms regulating glucose metabolism

私は膵β細胞や肝臓に発現する新規タンパク質が糖尿病の発症に関与していることを見出し、そのメカニズムの解明について検討を行っています。この研究が糖尿病の新たな治療法に貢献することを目指しています。

Vision

難病と呼ばれるような発病の機構が不明で治療法が確立していない疾患などに興味があり、研究者としてその原因解明による社会貢献と同時に、生物が持っている新たな可能性を発見したいと考えています。

Action

企業や被災地、さらには発展途上国などを直接訪問し、それぞれの問題解決に挑戦をされている方々からお話を聞くことができました。これらは自分の夢に対して大きな刺激となりました。さらに、異なる分野や国籍の方々との交流は自分の価値観を広げ、長所や自分に足りないものを新たに認識する機会を得ることができました。



水本 智也 Tomoya Mizumoto
4年コース 医学教育部 病態生化学分野 博士課程2年



HIGOプログラム修了者の声

HIGOプログラムは2017年度までに24名の修了者を送り出し、2018年度も3月に15名が修了予定です。本号では3名の修了者をご紹介します。

大町 紘平

博士（薬学）2018年修了
（基礎・専門コース 薬学教育部 遺伝子機能応用学分野）

【就職先】ワシントン大学（セントルイス）医学部 学振特別研究員

現在の仕事内容

腎臓の糸球体基底膜のタンパク質研究の権威であるMiner博士の下で、遺伝性腎炎アルポート症候群の研究を展開中。

博士号をとって良かった点

自ら課題・解決法を考え、何かを成し遂げる創造力を培った博士課程。多くの失敗と少しの成功から得た強みは現在にも生かされています。海外では博士号があるか否かで全く評価が違いため、今の仕事に博士号は欠かせません！

学生の間にできる限り多くの引き出しを持ってください。私の現在の研究のアイディアの根幹にあるのは、やはり学生時代に得た経験とスキルです。これまでに得たものと今後新たに身につけていくスキルをいかに上手くカクテルできるかが鍵！何事もまず挑戦してみましょう。たとえ失敗してもその経験が後で必ず役立つはず！



以前から漠然と「国際協力の分野で貢献したい」という夢を抱いていましたが、HIGOプログラムでの研究やJICA、上天草市役所でのインターンシップを経験後、「研究を通して国際協力に携わる」という具体的なビジョンを描くようになりました。現在の職場での研究は、国際協力とも関連があると実感しています。将来は、開発途上国をフィールドとした研究などにも積極的に挑戦したいです。



穴井 茜

博士（医学）2018年修了
（基礎・専門コース 医学教育部 公衆衛生学分野）

【就職先】環境省国立水俣病総合研究センター 国際総合研究部 地域政策研究室 特別研究員

現在の仕事内容

メチル水銀曝露によるヒトへの影響を疫学的視点から研究。

今の仕事にHIGOプログラムのこれが役立っている！

インターンシップやセミナーで学んだ「一つの課題に多くの問題が複雑に絡み合っており、解決するには様々な視点から考察する必要がある」というマインド！

大山 歩務

博士（健康生命科学）2017年修了
（基礎・専門コース 薬学教育部 製剤設計学分野）

【就職先】第一三共株式会社 製薬技術本部 製剤技術研究所 注射剤研究第二グループ 研究員

現在の仕事内容

注射剤の処方から製造プロセス設計までの開発研究

今の仕事にHIGOプログラムのこれが役立っている！

- 様々な分野の方々との交流で培った学際的な視点とコミュニケーション能力
- 独創的教育研究活動経費の申請等で磨いた自分への投資を提案する力

企業で働きながら大切だと感じることは、ゴールを見据えて迅速に行動すること、齟齬のないコミュニケーション、自己アピール、そして熱意です！

修了者の主な就職先
(2015～2018)

株式会社大塚製薬工場 研究開発センター（研究職）
バングラデシュ・ラージシャーヒ大学（講師）
カナダ・マギル大学（学術振興会特別研究員PD）
日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所（研究職）
株式会社サイディン（起業）
湧永製薬株式会社（研究開発職）
エジプト・近代科学芸術大学（講師）

奈良先端科学技術大学院大学（UEA:エデュケーション・アドミニストレーター）
米国・ジョージア州立大学医学研究所（ポスドク研究員）
バングラデシュ・プリミーシア大学（助教）
KMバイオロジクス株式会社（理系総合職）
フィリピン・アテネオ デ グヴァオ大学（講師・研究アドバイザー）
バングラデシュ・ジェッソー大学（准教授）
バングラデシュ・バングラデシュ科学産業研究評議会（Senior Scientific Officer）

学生募集！



HIGOプログラムへの入学を希望する方へ

以下の医学教育部または薬学教育部のいずれかの研究分野（研究室）から、入学後に希望する研究分野を選定し、分野の代表者（教授等）に事前にコンタクトを取り相談してください。

http://higoprogram.jp/admission_top



2019.1.1 現在

熊本大学大学院医学教育部

●基礎医学系

形態構築学	福田 孝一
生体微細構築学	若山 友彦
脳回路構造学	玉巻 伸章
神経分化学	太田 訓正
知覚生理学	宋 文杰
分子生理学	富澤 一仁
分子酵素化学	山縣 和也
病態生化学	山縣 和也
分子遺伝学	尾池 雄一
腫瘍医学	富澤 一仁
機能病理学	伊藤 隆明
細胞病理学	孤原 義弘
分子病理学	伊藤 隆明
細胞情報薬理学	中西 宏之
生体機能薬理学	光山 勝慶
微生物学	澤 智裕
免疫学	押海 裕之
免疫識別学	千住 覚
分子脳科学	岩本 和也
がん生物学	山口 知也
老化・健康長寿学	三浦 恭子

●社会医学系

公衆衛生学	加藤 貴彦
法医学	西谷 陽子
生命倫理学	門岡 康弘
臨床倫理学	門岡 康弘

●内科系

呼吸器内科学	坂上 拓郎
循環器内科学	辻田 賢一
代謝内科学	荒木 栄一
腎臓内科学	向山 政志
消化器内科学	佐々木 裕
血液・膠原病・感染症内科学	松岡 雅雄
神経内科学	安東 由喜雄
小児科学	中村 公俊
臨床病態解析学	松井 啓隆
放射線診断学	山下 康行
放射線治療医学	大屋 夏生
神経精神医学	竹本 実
救急・総合診療医学	笠岡 俊志
保健医学	藤瀬 昇
医療情報医学	宇宿 功市郎

●外科系

消化器外科学	馬場 秀夫
呼吸器外科学	鈴木 実
心臓血管外科学	福井 寿啓

乳腺・内分泌外科学	岩瀬 弘敬
小児外科学・移植外科学	日比 泰造
脳神経外科学	武笠 晃文
整形外科	唐杉 樹
産科婦人科学	片淵 秀隆
泌尿器科学	神波 大己
眼科学	福島 美紀子
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	折田 頼尚
歯科口腔外科学	中山 秀樹
皮膚病態治療再建学	尹 浩信
麻酔科学	山本 達郎

●発生医学研究所

分子細胞制御学	小椋 光
腎臓発生学	西中村 隆一
脳発生学	嶋村 健児
幹細胞誘導学	江良 沢実
損傷修復学	立石 智
組織幹細胞学	小川 峰太郎
細胞医学	中尾 光善
多能性幹細胞学	丹羽 仁史
染色体制御学	石黒 啓一郎
生殖発生学	中村 輝★
ゲノム神経学	塩田 倫史★

●生命資源研究・支援センター

資源開発学	中瀧 直己
ゲノム機能学	荒木 正健★
RI実験学	古嶋 昭博
疾患エピゲノム制御学	大口 裕人
疾患モデル学	荒木 喜美★
分子血管制御学	南 敬★

★の分野を希望する場合は、薬学教育部の入試を受験すること

●国際先端医学研究機構 (IRCMS)

国際先端医学Ⅰ	滝澤 仁
国際先端医学Ⅱ	指田 吾郎
国際先端医学Ⅲ	Guojun Sheng
国際先端医学Ⅳ	馬場 理也
国際先端医学Ⅵ	水野 秀信

熊本大学大学院薬学教育部

遺伝子機能応用学	甲斐 広文
創薬基盤分子設計学	石塚 忠男
生体機能分子合成学	大塚 雅巳
機能分子構造解析学	池水 信二
生殖発生学	中村 輝

分子薬化学	中島 誠
構造生命イメージング	寺沢 宏明
天然薬物学	塚本 佐知子
薬用植物学	渡邊 高志
薬物活性学	香月 博志
微生物薬学	大槻 純男
生命分析化学	森岡 弘志
環境分子保健学	三隅 将吾
薬学生化学	杉本 幸彦
疾患モデル学	荒木 喜美
製剤設計学	有馬 英俊
薬物治療学	猿渡 淳二
薬剤情報分析学	入江 徹美
臨床薬物動態学	斎藤 秀之
薬物送達学	今井 輝子
臨床薬理学	平田 純生
薬剤学	丸山 徹
分子血管制御学	南 敬
ゲノム機能学	荒木 正健
ゲノム神経学	塩田 倫史

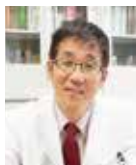
●学内他部局プログラム担当者

熊本大学理事・副学長	竹屋 元裕
熊本大学熊本創生推進機構 教授	上野 真也
熊本大学大学院社会文化科学研究科 准教授	石原 明子
熊本大学 名誉教授、客員教授	高橋 隆雄
熊本大学 顧問、名誉教授	小野 友道
大学院先端機構 特任准教授	久恒 昭哲
特任助教	梅田 香穂子
特任助教	大浦 華代子
特任助教	田辺 寿一郎
特任助教	Hari Prasad Devkota
特任助教	佐々木 葉月
特任助教	伊藤 尚文

●学外プログラム担当者

東京工業大学 教授	桑 昭苑
静岡文化芸術大学 准教授	河村 洋子
熊本県知事	蒲島 郁夫
熊本市長	大西 一史
前熊本市長	幸山 政史
熊本商工会議所 会頭（ホテル日航熊本 会長）	田川 憲生
熊本経済同友会 代表幹事（肥後銀行 会長）	甲斐 隆博
熊本日日新聞社 編集委員、熊本大学 客員教授	井芹 道一
Bloom Technology (株) 取締役	佐々木 一美

※HIGOプログラム担当者



安東 由喜雄
プログラム責任者
熊本大学大学院医学教育部 部長



小椋 光
プログラムコーディネーター
熊本大学発生医学研究所 教授

HIGOprogram Newsletter vol.12

発行：熊本大学 博士課程教育リーディングプログラム

国立大学法人熊本大学 教育研究支援部生命科学系事務課リーディングプログラム推進チーム

〒860-8556 熊本市中央区本庄1-1-1 Phone: 096-373-6832 Fax: 096-373-5031

mail: higo-program@jimu.kumamoto-u.ac.jp

<http://higoprogram.jp>



<https://www.facebook.com/higoprogram.jp>

デザイン：中川哲子デザイン室